

総務常任委員会行政視察報告書

1. 視察期間

平成22年10月13日（水）～10月15日（金）

2. 視察事項

- ・函館市地域交流まちづくりセンターについて（北海道函館市）
- ・室蘭工業大学との包括連携協定について（室蘭市）
- ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について（千歳市）

3. 視察事項選定理由

- ・函館市地域交流まちづくりセンターについて

函館市地域交流地域まちづくりセンターは、市民交流やNPOなど市民活動の支援だけでなく、観光案内を初めとする地域情報を発信し函館地域のコミュニケーションやまちづくり活動をサポートしている施設です。

藤岡市においては、今年度総合学習センターが開所し、多くの市民の皆様にご利用いただいています。今後、この施設を教育、生涯学習の拠点としての活用だけでなく、さらに当市にとって有意義な利用が必要と考え選定しました。

- ・室蘭工業大学との包括連携協定について

室蘭市は、明治5年の開港以来、港を中心に製鉄・造船など北海道の中心的工業都市として発展してきた市です。そうした歴史背景により、約70年前に室蘭工業大学が開学し、市内企業の長年に渡り蓄積された高度な技術と連携した研究成果を発表しています。そうした中、室蘭市では相互の発展及び地域社会の発展に資することを目的に室蘭工業大学と包括連携協定を締結しました。

藤岡市においても今年度、群馬医療福祉大学看護学部が開学し、大学と行政のさらなる連携が望まれます。そこで、先進地である室蘭市の現状を学びたく選定しました。

- ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

藤岡市では近年災害対策として洪水ハザードマップの作成・配布など、市民に対して防災意識の向上を図っています。しかし、日常では具体的な災害意識や防災知識については感じないことが誰しものでしょう。

千歳市防災学習センター「そなえーる」では、災害を知識として学ぶだけではなく体験を通して災害が発生したときの備えや行動を学ぶことができます。

市民に対する、防災意識のためにどのようなことが有効な手段なのか研修したく選定しました。

4. 視察結果

函館市地域交流まちづくりセンターについて（午前10時00分～午前11時30分）

- ・函館市の概要

函館市は、人口284,910人、男性130,429人、女性154,481人（4月1日現在）、面積677.92km²です。平成22年度予算は約2,534億円です。安政6年（1859年）横浜・長崎とともに日本最初の国際貿易港とし

て開かれて以来、市民の中にも新進的な国際感覚が息づく長い歴史と文化を有するまちです。

・函館市地域交流まちづくりセンターについて

建物は、大正12年創建の丸井今井呉服店函館支店の建物を改装し、新たに市民活動支援の支援や市民の交流の場、地域情報の発信拠点として運営しております。NPOやボランティアなどの活動支援、市民の交流や研修、展示会また地域の情報を集め、おすすめ観光スポット探し等も行っております。



運営については、「NPOサポートはこだてグループ」が指定管理者として、函館市より約2億1千万円の委託料で管理運営を行っています。職員は、常勤及び非常勤を合わせ計11名で、施設を訪れる人が利用しやすい環境に努めています。その例として、利用者の要望に耳を傾け、観光案内についても質問に対して「わかりません。」と言わず、必ず回答を相手に出すという方針や、開館時間についても午前9時から午後9時までとなっているが、利用者の希望があれば時間の延長も行っています。また、建物は市民に親しみのある百貨店を再利用しているため、センターへの来やすさなどがうかがえ、平成20年度

は約116,000人、平成21年度は133,000人と入館者の増加につながっていると思われました。



藤岡市においても、総合学習センターの利用について利用者と積極的に意見を交わし、より多くの人に利用されること、また施設と訪れた人が快適に利用できる空間を作ることを考え、総合学習センターをより良い施設にしてもらいたいです。

室蘭工業大学との包括連携協定について

(午後1時30分～午後3時00分)

・室蘭市の概要

室蘭市は、人口95,150人、男性45,731人、女性49,419人(3月末現在)、面積、80.65km²です。平成22年度予算は約800億円です。北海道の南西部に位置し、明治5年(1872年)の開港以来、天然の良港を活かし、海陸流通の要衝地として製鉄、製鋼、ドックを中心に北海道屈指の工業都市として発展、白鳥大橋や工場群の夜景見学会が行われ観光面での取り組みが進んでいます。

・室蘭工業大学との包括連携協定について

室蘭市、登別市、伊達市と室蘭工業大学は地域発展に資することを目的に、まちづくり、産業振興、福祉・医療、教育・文化の振興、人材育成や学術、災害等緊急時の避難場所情報の提供、小・中学校における総合学習への協力、外国人留学生へ

の支援関係を築いてきました。今回は個別の協力関係とは別に西胆振（にしいぶり）の3市と室蘭工業大学との取組みが可能な各種事業について、包括的に協力する事を目的としています。

大学との包括協定は、財団法人室蘭テクノセンターが連携し進めています。

市の職員の1割が室蘭工業大学卒業で、大学の高度な技術開発や大企業のノウハウを取り入れ地域発展に活かしています。また鉄鋼業が盛んな市が衰退していくなか、いかに生き残るか市、大学、企業各々が一体となり知恵を出し合い協力しているのが感じられました。

地域に大学があるということは、最先端の教育・知識を得られるチャンスが身近にあることだと伺いました。行政との連携については、単なる交流だけでなく大学が持つ専門的な知識を市の事業にどのように活かすかも重要であると感じました。当市に大学がある意義をしっかりと考え、今後の連携に繋げてもらいたいと思います。



千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について（午前10時30分～正午）

・千歳市の概要

千歳市は、人口92,785人、男性47,252人、女性45,533人（4月現在）、面積594.95km²です。H22年度予算は約701億円です。北海道の中南部、石狩平野の南部に位置し、札幌市、苫小牧市などに隣接。年間乗降客数約1,700万人の新千歳空港を初め、鉄道・高速道路などが集まる空陸の交通拠点都市です。

・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をテーマに、様々な災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶ施設です。事業期間は平成18年度から22年度で補助制度「まちづくり構想策定支援事業」として採択され、総事業費は約21億であり、財源は防衛省所管民生安定事業で実施し、国庫補助率は75%で補助裏として起債75%、市費25%で、市費は約1億3千万円となっています。管理については市直営であり、委託職員などが運営しております。この施設は防災の目的別に、A・B・Cの3区画が計画されており、平成23年度には全てのゾーンがオープン予定です。また、この施設の最大の特徴は、実際に体験できる設備が整っているところです。地震体験コーナー、煙避難体験コーナー、避難はしご、脱出シュート等の

体験をしました。特に地震体験コーナーでは今まで国内で発生した地震が全く同じ条件で体験でき、震度7の揺れを体験し、火災の恐ろしさ、地震の恐ろしさを改めて知りました。子供から大人まで災害を体験できる施設が存在することは大変貴重なことだと思いました。しかし、この千歳市には千歳空港や日本最大の面積を持つ千歳基地があることも忘れてはなりません。

藤岡市においても市民に対して広報啓発活動だけでなく、体験を通しての啓発活動や防災訓練などを行っていくことが防災意識高揚のために必要だと感じました。



以上の通り報告致します。

委員長 渡辺 新一郎

副委員長 松村 晋之

委員 山田 朱美

〃 茂木 光雄

〃 冬木 一俊

〃 佐藤 淳

〃 隅田川 徳一

〃 吉田 達哉